

夏目漱石の著書「草枕」の冒頭は、「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に掉（さお）させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい」とある。～『知情意』の世界を表現しているが、この続きがある～

「住みにくさが高じると、安いところへ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟ったとき、詩が生れて、絵ができる。人の世を作ったのは神でもなければ鬼でもない。やはり向う三軒両隣にちらちらするただの人である。ただの人が作った人の世が住みにくいからとて、越す国はあるまい。あれば人でなしの国に行くばかりだ。

人でなしの国は人の世よりもなお住みにくかろう。越す事のならぬ世が住みにくければ、住みにくいところをどれほどか、寛容て（くつろげて）、束の間の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職ができて、ここに画家という使命が降る（くだる）。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし（のどかにし）、人の心を豊かにするが故に尊とい（たっとい）

夏目漱石が「草枕」の中で語っている「住みにくい（＝生きにくい）」からこそ、「人の心を豊かにする芸術（＝詩や絵画などのアート）は尊い」という考え方は同感ですが、人間の存在を脅かす『AI』の時代、そして人類未経験の『人生100年』の時代にあっては、『智』は理知というよりも「知性」（＝Intelligence）／『情』は情けというよりも「感情」（＝Emotion）であり、『意』は意地ではなく「意志」（＝Will）を意味すると思います。とりわけ、この『意志の強さ』（＝Strength of Will）が備わってこそ、心のバランスが保たれると思います

そして行動規範としての『真善美』。『真』（＝Truth）は知性／認識力、『善』（＝Goodness）は意志／実践力、『美』（＝Beauty）は美意識／審美力を意味しています。『真▶善▶美』は北極星のように進むべき針路を示してくれますが、対極に舵を切ると“偽▶悪▶醜”となってしまいます。——『アート思考』の根底には、『知情意』の心のバランスと『真善美』の行動規範があり、特に『意志』と『美意識』が『右肩上がりの幸せな人生』へと導いてくれます

BST コメント

『人生の目的』
へ舵を切る

